

# 令和3年度 高学年授業改善プラン

	児童の課題	改 善 策
国語 5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の中で既習の漢字や仮名を適切に使い分け、正しく書くこと。</li> <li>・目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように、構成や書き表し方を工夫して書くこと。</li> <li>・言葉の意味や使い方などを理解し、目的や意図に応じて適切な言葉を選んだり用いたりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字ドリルだけでなく自主学習ノートへの書き取り練習をしたり、漢字テストを通して自分の苦手な字を把握したりできるよう指導を行う。日常の中で文や文章を書く際には、既習の漢字を使って書くことを継続して指導し、漢字を使うことの意味を感じながら使う習慣が身に付くようにする。</li> <li>・構成メモの作成など、文章を書く前に内容の準備や検討が十分にできるように指導計画を立てる。既習の「書くこと」の学習内容を想起しながら、文章構成や例や図表の効果的な使い方などについて押さえつつ、指導を行う。引用の仕方や書き方について、日常の調べ学習の機会なども通して定着できるよう指導を行う。</li> <li>・国語の授業に限らず日常的に授業内で国語辞典を引く機会を設けることで、語彙力を高められるようにする。「読むこと」の学習において、文や文章の中で用いられている接続語・指示語・修飾語などの言葉の役割を考え、どのような意味が込められていたり使い方が工夫されていたりするのかを、ノートに記述したり教科書本文にメモしたりするよう指導を行う。また、「書くこと」の学習とも関連付けて、自分が文や文章を書く際にもノートや教科書本文を見返して、適切に言葉を用いていけるようにする。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりすること。</li> <li>・語彙を増やしたり、漢字を正しく覚えたりすること。</li> <li>・身近な事象と関連付けながら、説明的な文章を読むこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の構成を考えたり推敲したりする時間を十分にとり、自分の文章を読み返す回数を増やす。また、クロムブックのドキュメントを利用して、簡単に手直しができるようにする。</li> <li>・友達から意見をもらう際は、机の配置や体の向きに留意するなどして、十分な距離を空けて交流するよう指導する。</li> <li>・読書・学習の時間等で読書の時間を確保し、多様な語句に触れて、語彙を増やせるようにする。</li> <li>・漢字ドリルを見ながら、書き順や成り立ちを確認するよう指導する。</li> <li>・筆者の主張を捉えるため、主張とそれを支える事例の関係に着目しながら、それぞれどの段落に書かれているかを確かめながら読み進めるようにする。</li> <li>・単元の終末に、自分の考えをまとめる時間を設ける。筆者の主張に対し、共感・納得した部分、疑問に思う部分を見付け、自分の経験や身近な事象をもとに理由を書くように指導する。</li> </ul>
社会 5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図帳や地球儀、統計、などの資料を通して、情報を適切に読み取ること。</li> <li>・社会に見られる課題を適切に捉え、資料などを活用して考察したり、議論したりすること。</li> <li>・社会的事象について、自分事として捉えることや、主体的に学習の問題を解決しようとする事。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を読み取る際の視点を示し、その資料と課題を結び付けて指導する。また、デジタル教科書や電子黒板などを積極的に活用し、視覚的にも理解しやすいように授業形態を工夫していく。</li> <li>・地球儀を用いる際は、ペアで一台用意し、多くの児童が教具を共有しないように配慮する。また、使用後は消毒等の処置をする。</li> <li>・知識・技能としてだけでなく学習を捉えるのではなく、社会的事象の理由や意味を考え、学習問題シートにまとめたり、発表したりする機会を授業の中で増やしていき思考力、表現力を高めるように指導していく。</li> <li>・食料生産や米作りなど、生活と深く結びついている単元は、自分たちの生活を振り返ることで、疑問や課題に気付けるようにする。また、国土の特徴が食料生産や工業生産などの産業につながることに気付かせ、学習のつながりを指導していく。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料集や地図帳などの基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の特性に留意して情報を集めたり読み取ったりすることを確認し、社会的な見方(時間的・空間的・関係的)・考え方(比較・分類、関連・総合)を生かして資料を読み取るよう指導し、教科書だけでなく、資料集や本、インターネット検索など複数の資料から情報をまとめることができるようにする。また、デジタル教科書や電子黒板を活</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象の特色や課題、関わり方などについて、考えたことを説明したり議論したりすること。</li> <li>・社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>用してポイントを示しながら、資料から読み取ったこと、そこから考えられることを分けて考えるよう指導する。</li> <li>・用語の復習を行い、人物や出来事への理解を深める。</li> <li>・ポイントや例示を示した上で、考えたことを文章で記述し、それを読み合ったり発表したりすることや、資料などを用いて説明したり、根拠や理由を明確に議論したりすることを適宜行い、力の向上を図る。</li> <li>・他教科等との関連を図ることや、これまでの学習を振り返ることをしながら、多角的に考えたり自分との関連を考えたりしてまとめる活動を行う。自分で考える時間を十分に保証した上で、それをグループや全体で検討したりする活動を設定し、より自分事として考えられるようにする。</li> </ul>
算数 5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生までに学習している整数、小数の四則演算を正しく計算すること。</li> <li>・三角定規、コンパス、分度器等を正しく使って作図すること。</li> <li>・2つの量の関係を考えるときに、どちらをもとにするのかを正しく判断すること。</li> <li>・新型コロナウイルスの感染予防をしながら意見を交流し、自分の考えを広げたり深めたりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で計算する機会を増やしたり、既習の計算の仕方を繰り返し丁寧に確かめたりする。</li> <li>・定着が不十分な児童には、補充のプリントを配布したり、授業の始めに数問の計算練習の機会を作ったりする。</li> <li>・授業の中で、既習の作図の仕方の確認や、各種用具の使い方の確認を丁寧にする。</li> <li>・定着が不十分な児童には、休み時間や放課後に補習をする。</li> <li>・数直線の図を書く手順を何度も確認したり、その図を使うことの実感できる機会を作ったりする。</li> <li>・電子黒板や書画カメラなどのICT機器を活用し、ソーシャルディスタンスを確保しても充実した交流が実現できるように様々に工夫する。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角定規、コンパス、分度器等を正しく使って丁寧な作図すること。</li> <li>・ク롬ブックのスクールタクトの機能を使い、各自の考えを交流し、自分の考えを広げたり深めたりすること。</li> <li>・数学のよさを実感し、生活や学習に生かそうとすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、既習の作図の仕方の確認や、各種用具の使い方の確認を丁寧にする。</li> <li>・定着が不十分な児童には、休み時間や放課後に補習をする。</li> <li>・スクールタクトを使う頻度を増やす。友達の考えを知り、自分の考えと比べてさらに分かったことや考えたことをスクールタクトやノートに加えさせる。</li> <li>・振り返りは学習内容のまとめりごとに書くようにする。より価値があり、具体的な振り返りが書けるように、振り返りを書く際に観点を示したり、よい振り返りについて紹介したりする。</li> </ul>
理科 5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条件制御について理解し、それを基に実験・観察の方法を考えること。</li> <li>・実験や観察の結果をもとに考察し、自分の考えを自分なりの言葉で表現すること。</li> <li>・学習したことを日常生活の中での事象に活用して考えること。</li> <li>・理科室の利用や実験や観察の器具の使用の際、新型コロナウイルスの感染が危惧される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたいことに関わる条件のみを変えることを繰り返し指導する。</li> <li>・変える条件と変えない条件が一目で分かるようにするために、マトリックスなどの思考ツールの活用を図る。</li> <li>・結果と考察、結論の違いを明示的に指導するなど、単元の学習の流れを児童と共通理解して授業を進める。</li> <li>・クラスで結果を共有したあと、結論を考えさせる前に問題を再度確認し、それに対する答えを書くことを繰り返し指導する。</li> <li>・教科書の単元末に設定されている「学んだことを生かそう」において、学習した内容の中でも具体的にどのことと関連付けて考えればよいのかをクラス全体で考えたり、問題で設定されている場面以外でもどのような場面で活用できるかを出し合ったりする。</li> <li>・ペアで1つ、可能であれば一人1つなど、多くの児童による器具の共有をなるべく避ける。(そのことによって、多くの児童が自分で操作する機会を得られ、学力向上につながることを期待できる。)</li> <li>・保護メガネ、フェイスシールドを適切に使用する。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察、実験などで用いる様々な器具に関する基本的な技能を身に付け、その意味を理解すること。</li> <li>・観察、実験などの結果を基に、多面的に考え、より妥当な考えをつくりだすこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人が器具を繰り返し操作する機会を設けるとともに、使い方を確認する際や結果をまとめる際などに、実際に行う(行った)器具の操作にはどのような意味があるのかを考えさせる。</li> <li>・結果を基に考察する際、過去に行った関連する観察や実験を想起させる。また、予想や仮説、自分の経験や知識などを関連付けて考</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科室の利用や実験や観察の器具の使用の際、新型コロナウイルスの感染が危惧される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>察するように促す。</li> <li>・理科室の机：向かいにシールドとなるシートを設置する。できるだけ実験器具などの共有を避ける。可能な限りペア、またな個人で観察・実験を行う。（そのことによって、多くの児童が自分で操作する機会を得られ、学力向上につながる事が期待できる。）</li> </ul>
音楽 56年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞活動において、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら楽曲を味わうこと。</li> <li>・歌や演奏活動において、自分の思いや意図をもち、それにふさわしい表現をするために必要な技能を身に付け、人前での表現発表に慣れること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感じ取ったことを起点に、その理由を、音楽を形づくっている要素の働きとの繋がりに気付けるような発問や、調べ考える学習を多く取り入れる。また、音楽を言葉で表すことに慣れるため、感じ取ったことや気付いたことをグループで伝え合うなどの活動を充実させる。またその際には、一定の距離を保ち感染症を予防する。</li> <li>・音楽に対して「こんな風に演奏したい」という自分の思いや意図をもてるよう、デジタル教科書や楽譜に書き込めるプリントなどを活用して、楽譜と音との関連を意識できるようにする。その曲のよさを感じ取り、表現活動につなげていくようにする。思いを実現し、表現するための知識や技能を身に付けた上で、自信をもって演奏できるようにする。少人数のグループ発表の機会を増やし、人前で表現することにも慣れていく。活動に当たっては、感染症予防のためパーテーションを利用し、間隔を開け、十分に換気された部屋で行う。</li> </ul>
図工 56年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品に愛着をもち、素材や用具に主体的に関わりながら活動すること。</li> <li>・用具や材料を安全で適切に使うこと。</li> <li>・自他の作品のよさや面白さを認め合い、鑑賞することの楽しさを味わうこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の試行錯誤する姿を価値付け、全体に取り上げる。</li> <li>・素材のよさや面白さを全体で共有する場を設けたり、素材のよさや面白さを生かしながら制作する児童を意図的に取り上げ、価値付けたりする。</li> <li>・児童自身の作品に自己の思考の変化や広がりを感じられるように、毎時間振り返りを行ったり、ある程度の題材時間を確保したりする。</li> <li>・用具や材料は児童が使いやすいように手入れや準備を行い、正しい使い方をしっかりと全体に指導する。具体的な使い方についてはそれぞれの児童の熟練の程度によって個別に指導していく。道具の共用はできるだけ避け、必要な場合は消毒しながら使う。</li> <li>・題材の中に互いの作品を鑑賞する機会を設けて、友達の作品や表し方の良さや面白さを共有し、認めあえるようにしていく。鑑賞の際には一定の距離をとり、作品への接触は控えるようにする。</li> </ul>
家庭 56年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活体験が乏しく、家庭生活への関心が低いこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習過程を工夫する。自分の家庭生活を見つめて題材に関する問題を見いだして課題を設定し、目的意識をもって学習に取り組むことができるようにする。実践的・体験的な活動を重視した活動を通して、必要な基礎的・基本的知識及び技能の定着を図る。身に付けた知識・技能を活用して計画を工夫し、実践活動を行う。更に、実践を評価・改善して、家庭・地域での次の実践につなげる。</li> <li>・ICTを活用して対話的な学びの実現を図る。考えを交流し合うことで多様な解決方法に気づき、自分の生活と関連付けながら家庭生活を工夫できるようにする。</li> <li>・「家庭科だより」を発行し、学習のねらいや内容を知らせ、家族が学習の意義や内容を理解できるようにして協力を得る。また、家庭実践においては、家庭からの一言を依頼し、児童が家族の役に立つ喜びを実感し、実践意欲が高まるようにする。</li> <li>・サポート松仙の協力を得て、実技面で遅れがちな児童への支援や安全対策を充実させる。</li> <li>・「調理の基礎」については、実施時期や方法を工夫する。</li> </ul>
体育 5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手意識があり、運動に消極的な児童がいること。</li> <li>・自己のめあてを意識して課題を設定し、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の興味・関心が高まるような単元の導入の工夫をすることで体を動かして楽しく運動できるようにする。運動を通して、自己の課題を解決したり、友達と協力したりすることで、体を動かす楽しさや喜びを味わえるようにする。練習の場や方法を工夫することによって、運動が苦手な児童にも支援をしていく。</li> <li>・ワークシートの活用をしたり、友達と教え合ったりしながら、自己の課</li> </ul>

	<p>課題解決に向けて思考・判断をすることにも、友達に伝える力を養うこと。</p>	<p>題を明確にし、課題に対して解決するための思考ができるような環境作りを授業の中で整えていく。</p>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手意識をもっている領域の運動に対して、意欲的に取り組んだり、自分にできそうなことに挑戦したりすること。</li> <li>・自分のめあてや課題を設定し、それに合う練習の場や方法を選ぶこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その領域の主たる運動につながる楽しい補助運動を単元や授業の初めに設定したり、どのような練習をすればできるようになるのかというポイントを明確に示したり、スモールステップで練習できる場を工夫したりする。</li> <li>・学習カードに、毎時間自分のめあてや課題を書かせ、それが適切であるかどうかを必要に応じて助言する。多様な練習の場や方法を準備するとともに、どういうめあてや課題を設定した場合にその場や方法が有効であるのかを明確に示す。</li> </ul>
外国語56年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要が捉えられること。</li> <li>・自分や相手のこと及び身の回りのものに関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合う。</li> <li>・自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な物を表す語句や表現を繰り返し聞いたり、質問に答えたりする活動を取り入れる。</li> <li>・既習事項を生かして話すスモールトークを取り入れる。</li> <li>・ターゲットフレーズを用いて話す活動では、自分の思いや考えを英語で伝える活動を取り入れる。</li> <li>・ALT を活用し、やり取りや発表をするときのよい見本(モデル)を見せる。</li> <li>・書く活動を取り入れ、その都度気を付けるところやポイントなど意識するところを継続的に指導していく。</li> <li>・フラッシュカードやワークシートに文字を表記し、文字を意識させる。</li> <li>・アルファベット大文字と小文字は帯時間で継続して取り組む。</li> </ul>